（様式１）

学力向上のための重点プラン

新宿区立落合第四小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	・ＩＣＴを活用し視覚的な手がかりを示したり課題提示の工夫や板書の工夫を行ったりすることを通して、児童が主体的・対話的に学習に取り組む授業を実践する。	中間評価	・ＩＣＴ機器の活用と共に課題提示、板書、発問等の工夫を行い主体的・対話的な授業を実践できた。	最終評価	・年間を通してＩＣＴ機器を活用し、ＩＣＴ機器を使うことが日常の授業となった。板書の工夫、発問の工夫、話し合いの場の設定などを工夫し主体的・対話的な授業の構築に努めてきた。今後も引き続き教師の授業力を高め学力の向上を目指す。
環境づくり		・活動の流れを示し学習に見通しをもたせることで、主体的な学習ができるようにする。また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。		・教室の前面掲示の配慮や児童に見通しをもたせるための活動掲示などを行い学習のユニバーサルデザイン化に努めると共に学校全体で主体的な学習ができるような環境になるように取り組んだ。		・学校全体で学習のユニバーサルデザインの視点で教室環境を整えた一年だった。教師の意識の高まりによって児童が集中して学習に取り組めるようになった。年度途中で確認し合うなどして今後も学習環境を整えていく。

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	・音読や書字、読解力などで個人差が激しい。音読では、言葉のまとまりを理解しないまま、一文字ずつ読み上げる児童もいる。	・くっつきの「つ」や、「を」と「お」、「わ」と「は」の正しい使い方が身についていない。 ・平仮名・カタカナ・漢字を書く時に、「とめ・はね・はらい」を意識して書くことができない児童がいる。	・家庭学習や国語の時間を使用して、ことばのきまりに関する課題に取り組ませて、繰り返し活用して慣れさせるようにする。 ・書写の時間に、書写ノートを細かく見て添削し、「とめ・はね・はらい」をしっかり意識して書字させるようにする。	・音読や書字などは、音読カードや家庭学習での取り組みによって、年度当初個人差が大きかったものが、小さくなってきた。 ・ひながな、カタカナ、漢字を書く時に、「とめ」「はね」「はらい」を意識して書くことが概ねできているが、一部の児童には、引き続き指導していく。 ・「話す・聞く」の学習では、ペアで相談したことを発表したり、グループで音読したりする学習を通して、話す聞く体験を積み重ねてくることで、意識して取り組むことができた。
	算数	・繰り上がりのない足し算・引き算に関しては、計算カードや問題練習によってほとんどの児童が習熟できているが、まだ具体物に頼って計算している児童もいる。	・繰り上がりのないたし算・ひき算がスムーズにできないために、繰り上がりの計算でつまづく児童がいる。	・家庭学習や短時間学習の時間を活用して、計算練習をさせていく。特に、計算カードを使った計算練習をペアで行う時間を取る。	・繰り上がり、繰り下がりの計算については、概ね定着したが、一部の児童には、引き続き具体物を使用し指導していく。 ・大きい数の足し算引き算については、習熟が必要である。時計については、５分刻みの目盛だけでは、十分に読み取れない児童もいるので、模型時計での練習も継続して取り入れていく。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学・言語事項では、漢字の定着はおおむね良い。 ・一方、「書くこと」では、型にはまった感想等は書けるものの、自分の考えをまとめて書くことを苦手とする児童が多い。また、「話す・聞く」では、自分の意見を伝えることはできるが、友達の意見を「聞く」ことに対しての意識が薄い。	・「書く」では、自分の考えを順序立てて、書くことに課題がある。 ・「話す」では、自分の思いを話すだけでなく、聞き手を意識した話し方がまだできていない。 ・「聞く」では、自分の考えと友達の考えを比べて聞くまでは、意識できていない	・「書くこと」の単元では、自分の意見の組み立て方を確実に押さえる。定期的に日記等も家庭学習などに取り入れ、書く方法が身に付くようにする。 ・「話す」では、書くことと関連させながら、理由も交えて話すことを意識させる。「聞く」では、友達の意見と自分の意見を比べながら聞けるようにする。	・スピーチや発表など、学級全体の前でも落ち着いて話すことができるようになってきた。話合い活動や友達の発表を聞く場面における「話の聞き方」に課題が残るので引き続き指導していく。 ・１日の出来事を振り返り、文に表す活動を通して、今後も、書く習慣を身に付けさせていく。言語事項に関するプリントにも繰り返し取り組ませ、学力の定着を図る。	・「書くこと」では、はじめ、中、終わりの型を使って書けるようになり、日常的な作文を通して自分の考えをまとめて文に書くことができるようになってきた。 ・「話す・聞く」では、自分の考えを発表する際に、相手を意識した発表が、おおむねできるようになった。一方で、友達の意見を静かに聞くことに課題が残るので、引き続き指導していく。
	算数	学・「表とグラフ」では、双方のよさを理解し、読み取りもよくできている。 ・「たし算やひき算の筆算」では、計算の仕方をおおむねよく理解できているが、説明までできる児童は一部にとどまる。 ・数え間違いや、計算の誤答が多い。指を使っている児童も散見される。	・読み取りや計算は、おおむねできているが、数え間違い等から計算の誤答が多い。 ・計算の仕方は理解しているが、自分の考えを説明したり表現したりする力に差がある。	・基礎的な内容を確実に習得させるために、板書内容を整理したり、必要に応じてワークシートを作成したりし、ノート指導の充実を図る。自分の意見も書く時間を取る。 ・見直しの指導を繰り返し行うと同時に、東京ベーシックドリルや昨年度のフォローアップワークシート等を、活用し取り組ませる。	・自分の考えを、図や言葉を使って整理し、説明したり、発表したりする力が身に付いてきた。 ・問題の意図を正確に理解することが難しい児童が２割程度いる。文章を読み取る力を身に付けることができるよう、プリント等で補いながら繰り返し指導していく。	・「長さをはかろう」の学習からも、既習事項を活用して考え、学習に取り組むことが身に付いてきた。 ・自分の考えをノートにまとめたり、互いに説明し合う学習を取り入れたりしたことで、式や答えだけにとどまらない学習につなげることができた。
3	国語	**調本校の正答率は８８．８％と、全国を６％、新宿区を３．３％上回っている。観点別にみると、全ての観点の正答率が全国、新宿区を上回り、特に「書く能力」「読む能力」の正答率が全国を大きく上回った。** 調　「言語事項」の正答率は特に高く、９６．５％にのぼる。 調　「読むこと」の正答率が低く、唯一８割を下回っている。 学・まとまった長さの文章を、短時間で書くことができる。 ・宿題の提出状況は良好だが、記入もれや設問に正対していない解答は少なくない。	・「話すこと」については、自分の考えや思いを積極的に話す児童が大半を占め、小集団での話し合いならうまくできる。ただし学級全体での活動時に友達の話を黙って「聞くこと」ができない児童は多く、この点は課題といえる。 ・「読むこと」については、授業で扱った教材の読解はおおむねできるが、宿題等で設問文を読み取れないケースが見られる。	・「聞くこと」については、まず友達の発言時には黙って耳を傾けることを徹底して習慣づける。また、友達の発言を聞いていないと答えられない内容の発問を意識的に増やし、聞くことの重要性を感じられるようにする。小集団の顔ぶれにも配慮する。 ・「読むこと」については、初見の内容でも落ち着いて読み取れるよう、発達段階に応じた言葉掛けをする。早く解き終えることを美徳とする児童ほど読み損じが多いので、時間をかけて見直しをするよう指導する。	・小集団での話し合い活動を、国語科を中心に多く取り入れた。友達と協働しながら課題を解決する活動を通して、すすんで自分の考えを表現する児童が増えた。 ・設問文と正対していない解答が国語以外の他教科におけるテストでも見られ、「読むこと」については、１学期の課題として残った。また、「書くこと」においても、誤字脱字や既習漢字を使わずひらがなで書く様子が見られたので、引き続き指導していく。	・「聞くこと」については、一年間で少しずつできるようになってきた。 ・「読むこと」についても、設問文と正対していない解答が減りつつある。 ・「書くこと」については、誤字脱字も既習漢字の使い忘れも、指摘されれば訂正できる。ただしミスのない答案を自力で仕上げることができる児童はまだまだ少なく、引き続いての指導が必要である。

	算数	調「数と計算」の領域別正答率は、全国より１３、２％上回っており、４、２％上回っている。 調「数学的な考え方」の観点別正答率が、全国を大きく上回っている。 調全ての領域と観点別正答率も全国平均より上回っている。 学・学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・図を用いて説明できる児童が多く、文章での説明も簡潔に分かりやすくまとめられる児童がいる。 ・かけ算がまだ定着していない児童が数名いる。	・２つの時刻の間の時間を求める問題、ある時刻から一定時間前や後の時刻の問題になると正答率が下がっていることが課題である。 ・「長さやかさ」の学習では、一目盛りの大きさを考えさせることが課題である。	・「時刻と時間」の単元では、操作できる時計を準備し、時計の文字盤や数直線を手掛かりにしながら問題解決ができるようにするなど、個に応じた指導を行う。 ・「長さ」の単元では、大きい目盛り(ｃｍ)、小さい目盛り(ｍｍ)の区別をつけて、仕組みを理解できるように指導する。また計算の場面では、ｃｍ、ｍｍの復習をし、同じ単位で計算することを確認しながらｍ、ｋｍの学習につなげていく。また自分の考えを説明したり、友達の考えと比べて考えたりできるように指導する。	・図や表を使って自分の考えを表現できる児童が増えてきた。時計を使用する学習では、場面に応じた操作を工夫できるように指導していく。 ・単位を意識することはできているが、ｍをｃｍに直すことが苦手な児童がいる。そのため、ｍｍやｃｍ、ｍでの言い方など、同じ長さでも様々な単位を意識できるように、指導を工夫していく。友達の考えを聞く際は、どの友達と同じ考え方なのかを考えながら聞くように、指導を繰り返し行っている。	・自分の考えを図や式、言葉を使って表すことができるようになってきた。また、時計や図形、角度などの学習では操作を多く取り入れたことで、技能が身に付いてきた。 ・復習を繰り返し行ったり、別の表し方を考えたりしたことで、考えに豊かさが出てきた。定着を図るためにも、引き続き復習を大切にしていく。また友達の意見を聞く時には、自分の考えと似ているところや違うところを意識して聞けるようになってきた。
4	国語	調・正答率は全国を 9.4%、区内を 9.2%上回っている。話す・聞くこと、書くこと、読むこと、言語事項などすべての観点においても全国、区内とも上回っている。しかし、正答率の分布をみると正答率が低い児童も全体の２割ほどおり、正答率の二極化がみられる。 学・学習に真面目に取り組み、課題にも意欲的に取り組む。 一方、学級全体の中で自分の考えや意見を発表する児童は特定の児童に留まっている。 ・宿題などの課題もしっかりとやってくる児童が多い。	・書けないわけではないが「書くこと」に対して苦手意識のある児童が多い。昨年度も同様の課題であった。 ・自分の考えをしっかりとノートやワークシートなどには書けるが､指名しないと挙手し進んで発言しようとする児童が少ない。 ・ローマ字を読んだり書いたりすることが苦手な児童が多い。	・ペア、小グループでの話し合いなど話合いの形態を変え、自分の考えを深めたり確かなものにしたりしながら自信をもたせ発言できるようにする。また、発言の話型なども示し、安心して発言できるように指導する。 ・生活の中にある身近なローマ字表記されたものを多く読む経験を積ませる。また短時間学習などの時間に東京ベーシックドリルを活用し繰り返し練習する。 ・「書くこと」では作文では、昨年度に引き続き書く活動を日常的に取り入れていく。良い書き方のモデルを示したり、語彙を増やしたりして書くことへの抵抗を減らしていく。	・ペアや小グループでの話し合いの場面を意図的に入れたり、発言の話型を教室内に掲示したりしたことにより、４月当初より発言しようとする児童が増えた。今後も引き続き指導していく。 ・ローマ字の学習については、まだ徹底した指導ができていない。１２月末までにしっかりと学習していく。 ・国語科だけでなく、他教科や家庭学習、自主学習などで意図的に書く活動を取り入れた結果、書くことに対しての苦手意識が少なくなった。しかし、苦手意識の強い児童もいるので個別に支援いていく必要がある。	・ペアや小グループでの話し合いを取り入れた一年だったので話し合いになると児童が自発的にグループで話すようになった。児童も安心して話し合いができ、結果、授業での発言が活発になり深い学びにつながった。まだ発言することを苦手とする児童がいるので引き続き指導していく必要がある。 ・ローマ字の学習は徹底できなかった。短時間学習等で今後も意図的、計画的に指導していく。 ・書く活動は各教科の授業での振り返りや行事の振り返り等、国語科に限らず意識的に行った。作文としてではなく気負わず書き、教師や友達、他学年と読み合う活動を取り入れたことによって読み手を意識して書けるようになった。
	算数	調・本校の正答率は８１．８％と、全国を１１．８％、新宿区を 8.1%上回っている。観点別にみると、全ての観点の正答率が全国、新宿区を上回り、特に「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。 学・学習に意欲帝に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 ・グラフや表の作図で迷う様子が見られた。 ・表やグラフから、読み取ったことや友達と比較して自分の考えを表現する力が弱い。	・問題の内容や、使われている用語も確認して課題に取り組むことが必要。 ・課題には意欲的に取り組むが、ノートに整理して書いていくことができない児童がいて理解に差がある ・表やグラフ作成の作成手順は理解しているが、丁寧さに欠ける。 ・見通しを持って課題に取り組めない。	・「時刻」「時間」など間違えやすい用語について確認する。 ・考えを整理するための言葉や文型を提示しノートにまとめるなど、児童が表現できるような支援をしていく。 ・定規の使い方や点の打ち方や大きさなどにも気を付けるように指導する。 ・習熟度別学習ではどの児童も自力で解決できるような課題を提示し、わかったことを実感できる授業を組み立てる。また、見通しを持って課題に取り組めるように、板書や視覚で捉えられる表示などを工夫する。 ・学習意欲の高い児童には、さらに工夫して意欲に応える課題を提示していく。	・「時刻」「時間」について、図を使い解説した。日常生活では「時間」になっているので引き続き注意していく。 ・問題を解く過程についてノートにまとめ、発表することがまだ十分にできない。説明の文型を示しながら、言葉の遣い方など具体的な例を出しながら引き続き支援していく。 ・定規の持ち方、使い方を意識しながら図を描く児童が増えてきたので、今後も指導を続けていく。 ・習熟度別学習では自力解決できる児童が増えてきた。一方習熟度によって課題にかかる時間が異なり、進度の差が出てしまうことが課題となった。支援の方法を工夫したい。 ・単元によっては学習意欲に応じた課題が提示できなかった。今後更に工夫していく必要がある。	・「時刻」「時間」について時折確認することを繰り返したことで日常も意識を持てる児童が増えてきた。 ・問題を解く過程について自分なりの考えを説明の文型を活用し発表することができるようになってきた。しかし、ノートにまとめることが十分にできない児童もおり、引き続き指導していく必要がある。 ・習熟度別学習においての進度の差は、児童同士の教え合いやプリントによる繰り返し学習をしていくことでクラス内の進度差を最小限にすることができた。 ・学習意欲の高い児童には、プリント学習や時間を設定しての自主的な学習などを行うことで個に応じた学習ができた。
5	国語	調本校の正答率は８１．８％と、全国を１１．８％、新宿区を 8.1%上回っている。「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国平均より４％上回っているが、新宿区平均より２．７％下回っている。 調「書くこと」の正答率は、全国平均より 4. 2%、新宿区平均より 2. 4%上回っている。 調全ての領域と観点別正答率も、全国平均・新宿平均より上待っている。 学 学習や課題に対しては、意欲的に取り組む。 自分の考えを伝えることはできるが、根拠をもち説明することは弱い。	・段階的に指導し、決められた手順で答えを出していくことは得意だが、大枠を捉え、自分で考えながら、解いていくことが苦手である。 ・書く力に関しては、個人差が大きい。作文を苦手としている児童も多く、継続的な指導が必要となる。 ・漢字に関しては、文章の中で書くなど活用に関して、課題がある。	・問題解決として、課題を捉え、児童が思考する場面を授業の中で意識して増やしていく。 ・継続的に作文を指導していく。短作文や行事作文、日記など多様な形式で書かせ、自分の思いを表現することを意識させる。 ・小テストを活用し、児童が自ら書く意識を育てる。また、作文の中でも漢字を意識的に使うように指導する。	・報告書・意見文等、自分の考えを書く際は、根拠となる理由を明確にするように繰り返し指導した。また、事実と意見を明確に意識して書くように指導している。 ・50 問テストや小テストを活用し、児童が正しく漢字を書くことを意識して、学習できるようにした。作文や新聞、報告書等で、意識的に漢字を使えるように指導している。 ・文章を読む学習活動では、作者や筆者の目的を意識して読むことを繰り返し指導していく。	・報告書・意見文等、自分の考えを書く際は、根拠となる理由を明確に書けるようになった児童が増えた。 ・50 問テストや小テストでは、正しい漢字が書ける児童が増えた。作文や新聞、報告書等では、まだ難しい児童もいるので今後も継続して指導していく。 ・文章を読む学習活動では、作者や筆者の目的を意識して読むことができる児童が増えた。

	算数	調本校の正答率は、79.5%と、新宿区を 2.1 ポイント上回っている。「数と計算」の観点別正答率は、全国平均より５.１%、新宿区平均より１．７%上回っている。 調「量と測定」の観点別正答率は、全国平均より５%、新宿区平均より０．７%上回っている。 調全ての領域と観点別正答率も、全国平均より上回っている。 学　学習に対して真面目に取り組む児童が多い。 ・計算などのケアレスミスがある。 ・図形や空間的把握が難しい。 ・自分の考えを式や計算で書くことはできるが。課題に対しては、説明する力が弱い。	・理解度に関して、個人差が大きい。特に数から図に具体的にイメージすることが難しい児童がいる。 ・公式を覚えているのだが、公式の意味や内容を理解し、活用できる児童が少ない。	・授業内では、公式を教えるだけではなく、なぜ公式で問題が解けるのか、説明できるように指導する。また、式と図、図と言葉など、複数の方法で説明できるように指導する。 ・算数への抵抗感が減るように、スモールステップの指導を行う。	・図・式・言葉を用いて、自分の思考の流れを振り返ることができるノートの書き方を繰り返し指導していく。今後も、図や数直線を用いて考えをまとめるノート指導を重点的に指導していく。 ・少人数指導を展開する中で、一人一人の児童の実態に沿った課題を用意し、個別の指導改善を図っている。基礎的・基本的な学習内容の定着状況を分析するとともに、児童の実態に合わせた発展的な学習内容も用意し、学力の定着を図る。	・図・式・言葉を用いて、自分の思考の流れを振り返ることができるノートの書き方ができる児童が増えた ・個別の指導改善はまだ難しい。これからも、児童の実態に合わせた学習内容を用意し、学力の定着を図っていきたい。 ・理解度に関しては、まだまだ個人差がある。引き続き、個別に見合った内容を ICT を活用して指導していく
６	国語	調「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国平均より４%上回っているが、新宿区平均より０．６%下回っている。 調昨年度書くことが課題であったが、全国平均より６．１%、新宿区平均より２．２%上回っている。 調全ての領域と観点別正答率も、全国平均より上待っている。 学　学習や課題に対して、意欲的に取り組む。また、グループ活動で活発に話し合いを行う様子が見られる。	・正しく聞いて理解し、表現することに個人差がある。 ・要点をまとめる力は昨年で書き方が身に付いてきたものの、文脈に沿って書く力が難しい。 ・漢字を書くことを昨年指導し、学習の中で既習事項の漢字を活用するようになってきたものの、個人差がある。	・正しく聞きとるために、数字や言葉、文脈等を読み取る「聞く」トレーニングを行う。 ・昨年に引き続き、構成メモを使って要点をまとめる力を付ける。推敲カードを使い、自発的に推敲をする力を付けることで、文脈に沿って書く力を付ける。 ・デジタル教科書の新出漢字を使い、書き順を正しく定着できるようにする。	・書くことの単元では、構成メモを活用し、要点をまとめることで、筋道立て書けるように指導している。推敲カードを使い、自発的に推敲する習慣を身に付けられるように指導している。 ・空書きを通して、漢字の書き順を正しく定着できるように繰り返し指導していく。	・年間にわたり、構成メモや推敲カードを使って書く指導を行ったことで、自発的に文章を推敲する力、文脈に沿って書く力が付いた児童が増えた。 ・５０問テストや小テストで、正しい漢字を書くことができる児童が増えた。
	算数	調「量と測定」の観点別正答率は、新宿区平均より０．７%下回っている。 調全ての領域と観点別正答率も、全国平均より上回っている。 学　学習に対して意欲的であるが、学力の差が大きい。	・「量と測定」で、見取り図を書き、立式することが困難な児童がいる。 ・算数への苦手意識のある児童や理解が難しい児童が一部見られる。	・「量と測定」では、面積や体積などの見取り図を書き、立式できるようにする。 ・問題への抵抗感が減るよう、具体物を通して理解しやすいように提示する。	・組み合わせた立体の面積や体積を求める際に、見取り図を使って、児童が立式しやすいように指導した。 ・問題の内容を理解しやすいように具体物を示したが、立式できない児童がいた。実物を手に取らせる、図を描かせるなど、児童が自らの感覚を通して、数や量、図形の概念を捉えられるように繰り返し指導していく。	・組み合わせた立体の面積や体積を求める際に、見取り図を使って立式する児童が増えた。 ・問題への抵抗感があるが、具体物があったり、問題の理解ができたりすれば、算数に対して苦手意識がある児童も意欲的に解く様子が見られた。
音楽		学　全体的にどの学年も音楽の学習に意欲的な児童が多く、すすんで表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・のびのびと音楽活動を楽しんでいるが、思いや意図をもって自ら表現の工夫をしたり、感受したことを自分の言葉で表現したりすることが苦手な様子が見られる。	・児童が自分の思いや考えを整理しやすいようワークシートを工夫する。また、それをもとに友達と意見を交流したり、実際に音楽で表現したりする活動を意図的に設定する。	・音楽科におけるプログラミング教育においてもワークシートを工夫することにより、個の考えを整理したりグループで意見を交流しやすくなり、音楽づくりに生かすことができた。	・低中学年では、友達の発言を参考に、音楽から感受したことを表す語彙が増え、自分の言葉で表現できる児童が増えた。高学年ではワークシートを活用することにより、どのように音楽を表現したいかじっくり考え、その後の歌や演奏に生かすことができた。
図工		学 ・材料に積極的に関わるとともに進んで活動し、自分なりの表現を何度も試しはっそうしようとする意欲的な児童が多い。	・自分の表現への肯定感が低く自分の思いに合わせて画材や素材や表現方法を選んで効果的にあらわす力が弱いのが課題である。	・自分の表現の良さや他者の表現の良さに気付き自信を持てるように言語化して伝える活動をする。 ・画材や素材や表現方法を発達段階に応じて豊富に用意し、自分の思いに合わせて選択できる活動を設定し思考力、判断力、表現力を高める。	・児童がお互いに表現を認め合い良さを伝える活動を意図的に増やしている。 ・高学年では、自分の表現に合わせた材料や表現方法を選択できる児童が増えてきている。	・自他の作品の良さを伝える活動を継続したことで意欲が向上した。 ・自分の表現にあわせて画材や表現方法を試して、その効果の違いから、画材や表現方法を選ぶことのできる大愛を設定することで、主体的に学習する姿勢の向上が見られた。
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は 2 ページ以上となってもよい。